

<今回>196回目 2016年10月23(水)16時~18時 1503号室

読書は8冊目「邪馬壹国の論理」24P 邪馬台国論争は終わった九 より

<前回>195回目(16-10-7) 出席者12名

資料 16-10-07-1) 前回のまとめ(清水)

-2) 榎一雄氏の反論(13)のワープロ文(富川)

A 報告

12名の参加で資料が一杯であった。次から14部とする。

津多家で会食10名、18128円(1800円・10名) —128円

B 資料 -2)榎氏の反論の次の(13)をワープロ化してくれたもの。

① 初2年遣使、3年諸事凍結論は苦しい解釈であり、3年遣使の方が自然である。

卑弥呼の初使節

② 朝貢物の問題 男生口4人、女生口6人、斑布6匹 古田は紹熙本から明帝の景初2年6月と言っているが、日本書紀神功紀の注、太平御覧に引く魏志も景初3年6月である。(通典、三国史記なども景初3年)

③ 公孫淵征伐の完了したのはこの年の8月7日(238年9月2日)であり、戦中派遣になると古田はいう。

④ 景初2年の12月に卑弥呼へ詔が下り、金印紫綬など包装して帯方太守を通じて手渡すべき事を告げて、使節にも官を授け正始元年(240年)に帯方太守弓遵は部下に詔書印綬をもたせて倭国に行かせたと古田は云う。

⑤ 発病急死問題 これでは使者は空手で帰国した事になるからおかしい。明帝死去により、劉劭伝には命令を施行せずと書いてあるから諸行事を取りやめたと云うのは古田の拡大解釈である。

魏使が倭国に到り、「金帛錦罽刀鏡采物」を賜ったとあるのは魏使を伴った卑弥呼の使いが持ち帰ったものとして何らさしつかえない。古田の景

C 読書「邪馬壹国の論理」P24邪馬台国論争は終わった 七 から

七)魏晋(西晋)朝短里説の提起 以下の証拠を上げている。

① 潜中 天柱山有高峻二十余里 実高1860m(長里ではエベレストより高くなってしまふ)(魏志十七)

② 対海国に至るまた南一海を渡る 千余里(魏志倭人伝) 長里では鹿児島の方まで行ってしまふ。

③ A 江東小なりと雖も地方千里(史記、漢書)

B 江東に割拠す 地方千里(呉志九) Aの 5, 6分の1の表現

④ 南零桂を収め北漢川に拠る 地方数千里(魏志六劉表伝)

⑤ 韓は帯方の南に在り東西海を以て限りとし南倭と接す 方四千里なる可し(魏志三十韓伝)

八) 2つの長さの単位があり、独立している。

A 寸一尺一丈 漢代と大差ない(人長9尺から侏儒4尺まで)

B 歩一里 短里問題はBのみに関係しAに及んでいない。(現代の里は4kmと大)

市村其三郎氏、藪田嘉一郎氏の魏尺24.5cm、漢尺23.3cmの指摘反論はあるがAで当たらない。

次回日程 2016-11-7(月) 15時~18時 1503号室

-11-21(月) 16時~19時 1503号室